済生会今治病院
病気の話

# 腹腔鏡手術について

## 今回は副院長で日本消化器外科学会専門医の、井口利仁医師に「腹腔鏡手術」について伺いました。

▲井口 利仁 医師

今回は腹腔鏡手術についてお話します。開腹の手術は、腹壁を大きく切開し、外科医が自分の目で見ながら腹部臓器の手術を行います。それに対し腹腔鏡手術は、ビデオカメラや専用の器具を挿入し、ビデオ映像を見ながら手術を行います。普段お腹の中は隙間なく内臓で満たされていますので、腹壁と内臓の隙間に二酸化炭素を送り込み（気腹）、腹壁を天井とし、臓器が床にある状態の作業場をつくって手術ができるようにします。

腹腔鏡手術には①傷が目立たない ②術後の痛みが少なく回復・退院が早い ③カメラによる拡大視効果で細かい操作が可能 といった利点があります。現在では早期癌以外にも進行癌への適応が広がっており、当院でも腹腔鏡手術を選択肢としている疾患は多くあります。とはいえ①胃や大腸の手術では手術時間が長くなる ②手術台を傾けたり、気腹するため心臓や肺に負担がかかる ③複雑な操作には向かない などの欠点もあります。このように、腹腔鏡手術はすべての手術に適しているわけではありません。また、開腹か腹腔鏡かという選択肢はアプローチ方法の違いであり、癌の手術などでは切除する範囲は同じ（ですから治療成績も同等）です。

私たちは問診や既往歴や術前検査などで得た情報をもとに、疾患や患者さんの状態に合わせて適切な手術方法を提案しています。腹腔鏡手術が選べる場合には、利点と欠点について担当医とよく相談することが大切です。


社会福祉法人
恩賜財団 済生会今治病院
今治市喜田村7丁目1番6号 https://www.imabari.saiseikai.or.jp/
0898-47-2500